

経済・金融
フラッシュベトナム経済:24年10-12月期の成長率は
前年同期比 7.55%増
～輸出主導の好景気が継続経済研究部 准主任研究員 齊藤 誠
(03)3512-1780 msaitou@nli-research.co.jp

1. 結果の概要：3期連続の成長加速、市場予想を上回る

2024年10-12月期の実質GDP成長率は前年同期比7.55%増¹（前期：同7.43%増）と小幅に上昇し、市場予想²（同6.7%増）を上回る結果となった（図表1）。

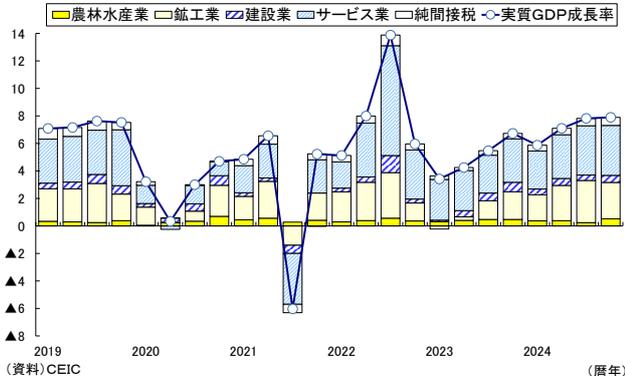
なお2024年通年の成長率は前年比7.09%となり、2023年の同5.07%から大きく上昇、当初の政府の成長率目標である6.0%～6.5%を上回った。

10-12月期の実質GDPを産業別にみると、農林水産業と建設業の回復が成長率上昇に繋がったことが分かる。

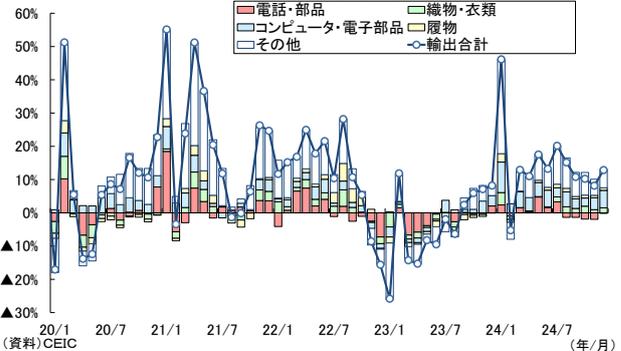
まず鉱工業・建設業は同8.57%増となり、前期の前年同期比9.36%増から低下した。主力の製造業が同10.67%増（前期：同12.25%増）、電気・ガス業が同7.55%増（前期：同8.19%増）となり、それぞれ増勢が鈍化した。一方、鉱業が同6.29%減（前期：同7.26%減）となりマイナス幅が縮小、建設業が同6.74%増（前期：同5.53%増）と加速した。

GDPの4割強を占めるサービス業は同8.35%増（前期：同8.28%増）と小幅に上昇した。サービス業の内訳を見ると、情報・通信業（同10.18%増）をはじめとして運輸・倉庫業（同9.93%増）や宿泊・飲食業（同9.37%増）、金融業（同8.57%増）、教育（同8.50%増）、党関連活動（同8.39%増）、卸売・小売業（同8.05%増）が高成長だった。一方、保健・社会サービス（同6.11%

（図表1）
（前年同期比、%） ベトナムの実質GDP成長率（供給側）



（図表2）
（前年同月比） ベトナム 輸出の伸び率（品目別）



¹ 1月6日、ベトナム統計総局（GSO）が2024年10-12月期の国内総生産（GDP）を公表した。

² Bloomberg 調査

増) や政府サービス (同 6.20%)、専門・科学技術サービス (同 6.48%増)、不動産業 (同 6.50%増) は相対的に緩やかな伸びにとどまった。

農林水産業は前年同期比 4.58%増 (前期: 同 2.17%増) と上昇した。

2. 結果の評価と先行きのポイント

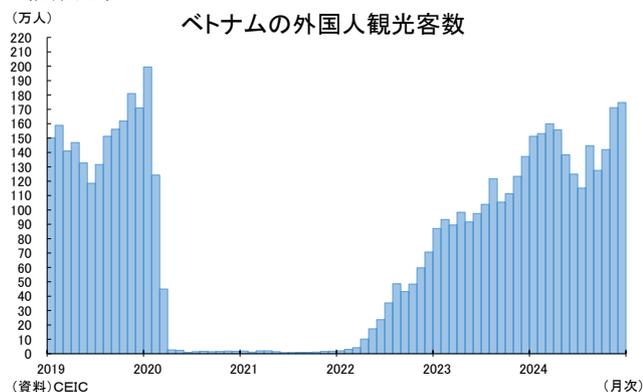
ベトナム経済は、2023 年は輸出の落ち込みや電力不足、不動産市場の停滞等により実質 GDP が前年比+5.07% (2022 年: 同+8.54%) と鈍化したが、2024 年は輸出の好調により成長率が同+7.09% まで上昇した。

また今回発表された 2024 年 10-12 月期の成長率は前年同期比 7.55% (7-9 月期: 同+7.43%) と 3 四半期連続で上昇した。ベトナムは昨年 9 月に大型台風による被害を受けたが、世界的な消費回復を背景に 10-12 月期も輸出主導の好景気が続いていることが明らかとなった。2023 年後半からの景気回復は主に製造業とサービス業の好調によるものだ。まず製造業 (同+10.18%) は輸出拡大を追い風に力強い成長が続いている。通関ベースの貿易統計をみると、10-12 月期は同の財貨輸出は同+10.4%と大幅に増加、コンピュータ・電子部品や衣料品の出荷が米国向けを中心に伸びている (図表 2)。また公共投資も拡大しており、建設業 (同 6.74%増) が加速した。

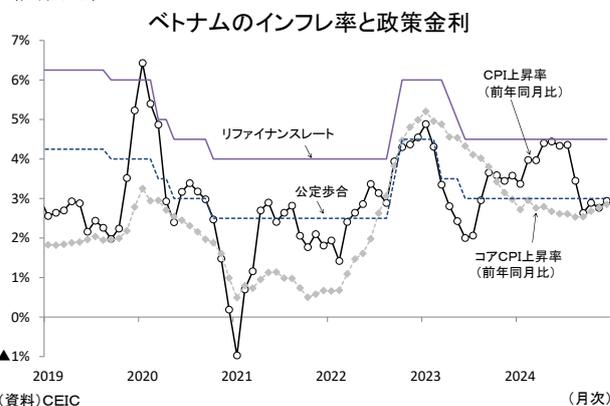
サービス業 (同+8.35%) は貿易と観光が活発で高成長を維持した。ベトナム政府はビザ優遇政策や観光プロモーションの強化が奏功し、10-12 月期の外国人観光客が同+31.2%の 487 万人であった (図表 3)。なお 2024 年通年では 1,760 万人 (前年比 39.5%増) となり、コロナ禍前の 2019 年の水準 (1,800 万人) の 98%を回復している。またモノの貿易量の増加に伴い運輸・倉庫業 (同 +9.93%) と宿泊・飲食業 (同+9.37%) が好調でサービス業全体を牽引している。このほか、10-12 月期は物価が+3%前後に安定 (図表 4)、雇用情勢の改善や付加価値税減税の継続、最低賃金の引き上げなども加わって家計の購買力が向上しており、小売業 (同 8.05%増) は堅調に拡大したほか、市場の回復により不動産業 (同+6.50%) が加速した。

ベトナム国会が掲げる 2025 年の成長率目標は 6.5%~7.0%ペースだが、ベトナム政府は更に上の+8%成長を目指している。足元の輸出は順調に推移しているが、徐々に次期米政権による貿易保護措置の影響が出始め、増勢が鈍化する可能性が高い。こうした先行きの不透明感が影響して、足元の海外直接投資 (FDI) の認可額が失速しており、2024 年の FDI 認可額は前年比▲3.0%と減少した。今後は民間投資が鈍化する恐れがある。一方、内需は消費と公共投資が下支えとなって

(図表 3)



(図表 4)



成長ペースは堅調を維持しそうだが、ベトナム政府が目指す+8%の成長目標の達成は容易ではないだろう。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。